

さくらさんたちは7月8日にプラネタリウムへ

昨年はコロナウイルス感染防止のため、5歳児さくらさんは名古屋市科学館プラネタリウム鑑賞に出かけることが出来ませんでした。代わりにホール天井をスクリーンにして星座を映し出し、子どもたちは寝転がって星座鑑賞を楽しみました。

今年度は行けるかと思って予約を入れた6月8日は緊急事態宣言中となり、普段は変更が聞かないがダメもとで変更を依頼したら7月8日に変更が出来ました。

現地まで公共交通機関を使って出かけるのは不安が伴うので今年度は市バスを借り切って行く手配をしています。七夕の翌日でのプラネタリウム。子どもたちに素敵な時間を作れるといいなと思っています。



みんなで一緒に遊ぶのが楽しい ♪♪

朝の自由遊びの時間、園庭ではたんぽぽからさくらまでの子どもたちが、それぞれに交わりながら自由に遊んでいます。大きいクラスの子たちは自分たちの遊びの中に友だちの弟や妹も加えて遊んだり、小さい子たちは大きい子たちの遊びに勝手に？入り込んで遊んだり、自然に交わりながら、小さい子たちは大きい子たちからの刺激を取り入れ、大きい子たちは小さい子たちを交えながら遊びを広げている姿が何とも微笑ましく素敵です。

園庭の真ん中でどっかり座り込んで泥団子を作っているグループ、砂場で砂山や料理作り、車など走らせているグループ、“ちいさいお家（砂場の横にあるお家）”で料理などを作って保育者にご馳走してくれる子たち、三輪車や手押し車を押したりして、いっちょまえ意識で遊んでいるたんぽぽさんたちと様々です。また、さつま芋の苗が植えてある畑で保育士が草取りをしていると、一緒に手伝ってくれる幼児クラスの子どもたち。そこに興味を持ってちょこんと畑に入り込むたんぽぽさんたちもいます。



また、幼児フロアーに遊びに来たつくし組の子を見つけて、一生懸命に接してくれる幼児クラスの子どもたちの姿もなんとも微笑ましいです。

沖縄「慰霊の日」

6月23日は、沖縄「慰霊の日」でした。76年前、本土決戦の捨て石とされた沖縄にアメリカ軍が進行し、島全体が焼かれ、全島民の4人に1人が犠牲になりました。このことを忘れないために、この日を「慰霊の日」として定め、激戦地だった糸満市の摩文仁の丘（まぶにのおか）に記念碑「平和の礎（いしじ）」が建てられました。そこには沖縄戦で犠牲になった人たちの名前が刻まれています。今年も新たに亡くなった41名の方々の名前が刻まれました。毎年この場で「沖縄全戦没者追悼式」が行われています。コロナの影響で、昨年に引き続き今年度も式典は規模縮小しての開催となりましたが、玉城デニー知事が「沖縄から世界へ平和の輪が繋がっていく事を目指し、核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立のため、普段の努力を続けていく」と表明しました。

毎年この追悼式では小学生から高校生までの児童・生徒から「平和の詩」を読み上げています。

今年度は中学2年の上原美春さんの詩が選ばれ、上原さんは堂々ととても長い詩を読み上げました。

ここでは内容を書くスペースがないので全文を玄関に掲示しました。ぜひ皆さん読んでみてください。沖縄の歴史、戦争中に受けた沖縄の人たちの苦しみや悲しみをしっかり学び、自分たちが平和な世界を作り未来へとつなげていく決意がしっかりした口調で語られています。